

# 「大阪女学院短期大学紀要」執筆要領

## I. 編集方針

1. 投稿者は大阪女学院短期大学学術研究会会員および特別に依頼されたものとする。
2. 本紀要に掲載される原稿の種類は次のとおりとする。
  - a 自由論文
  - b テーマ論文
  - c 研究ノート
  - d 書評論文
  - e 書評
  - f 内外の学術研究会及びこれに類する集会の紹介
  - g その他学術研究委員会が必要と認めた記事
3. 本紀要に発表する原著論文、研究ノートは、他に未発表のもの、または学会大会等での口頭発表の主題をその学会等の了解のもとに原稿にまとめたものに限られる。
4. 本紀要に掲載された論文等は無断で他の雑誌等に転載することを禁ずる。また執筆者がすでに外国語または日本語で発表した論文を日本語または外国語に翻訳して掲載を希望する場合には、学術研究委員会において審議のうえ、それを許可することがある。ただし、この場合、著作権処理に関する責任は全て執筆者が負うものとする。その場合の翻訳料は支払わない。
5. 原稿の掲載は、学術研究委員会の依頼した審査者による査読を経て、採否を決定する。必要な時は外部者に査読を依頼し、学術研究委員による査読と併用する。また必要に応じて、執筆者と協議のうえ内容および表記の変更を求めることがある。
6. 事務局担当者受け付けの日付を原稿の受理年月日とする。
7. 執筆者には抜き刷り20部を贈呈する。それ以上の部数が必要な場合は有料とする。その場合は採用決定時に必要部数を事務局担当者に申し込むことが必要。

## II. 執筆上の注意

1. 使用言語は原則として日本語または英語とする。
2. 投稿原稿の最大字数は、日本語は20,000語、英語は8,000 words程度とする。
3. 論文および研究ノートには日本語および英語の抄録をつける。抄録の長さは、日本語は300字、英語は150 words以内とする。
4. 論文および研究ノートには5項目以内のキーワードを日本語および英語でつける。
5. 手書き原稿の場合は、本学指定の横書き原稿用紙(20字×10行)を使用し、ペンまたはボールペンを用いて執筆をする。ワードプロセッサで執筆する場合はA4版の用紙に40字×40行でプリントする。
6. 英語論文の場合はA4版の用紙に12ポイントの文字を用いダブルスペースでプリントする。原稿は左揃えとし、行末のハイフネーションは用いない。
7. 投稿原稿はコピー1部を添付し、合計2部提出する。この他にフロッピーディスクで提出を求めることがある。
8. 日本語で書かれた原稿の第1頁には以下の記載をする。

投稿原稿の種類、標題、著者名、英語標題、著者名のローマ字表記(ヘボン式)、日本語抄録、日本語によるキーワード、英語抄録、英語によるキーワード(固有名詞以外は小文字で表記)。本文の後には、注、引用文献等の順に記載する。

9. 英語で書かれた原稿の第1頁には以下の記載をする。  
 投稿原稿の種類、標題、著者名、標題の日本語訳、著者名の日本語表記、英文抄録、英語によるキーワード（固有名詞以外は小文字で表記）、日本語抄録、日本語によるキーワード。
10. 図版および表は別紙に用意し、それぞれにタイトルと番号（図1、図2、表1、表2）を付記し、原稿にその挿入箇所を指定する。図等の出来上がりサイズの希望があれば、指定することができる。図、表等は原稿の枚数制限に換算する。
11. 原則として現代かなづかい、常用漢字を用いる。
12. 原則として数字はアラビア数字を用いる。
13. 略称、略語は、最初に出てくる箇所で正式名称をカッコを付けて付記する。  
 例：International Federation for Information and Documentation (FID)
14. 外国人名や地名は日本語として慣用化しているもの以外は、原則として原綴りで記載する。
15. 章、節などの見出し区分はポイント・システムを用いるのが望ましい。  
 例：第1章 → 1.  
 第1章、第2節 → 1.2  
 第1章、第2節、第3項 → 1.2.3
16. 注には通し番号をつけ、本文中の該当箇所の右肩に（1）、（2）のごとく示し、論文末尾に一括して記入する。
17. 本文中の書名、誌名は二重かぎカッコ「 」でつつみ、雑誌論文名、記事名は“ ”の中に入れる。欧文書名および誌名はアンダーラインを引く（イタリックで記載される）。
18. 本文中の引用文はカッコ「 」の中に入れる。長い引用文の場合は改行し、本文より2字下げで記載する。
19. 原稿執筆の形式は原則としてMLA（The Modern Language Association）ハンドブック（第3版）に準拠することが望ましい。ただし一貫性を保つのであれば必ずしもこの原則に従わなくともよい。
20. 引用文献は論文の最後に、著者名のアルファベット順に一括して記載する。基本的に以下の事項が必要とされる。  
 図書：著（編）者名、『書名』、（版次）、出版地、出版社、西暦出版年  
 論文：著者名、“論文名”、『雑誌名』、巻号数、頁数、年月  
 例：笠原嘉 『アパシー・シンドローム』東京 岩波書店 1984。  
 Rider, Shirley M. “Music of the World’s Culture.” *Osaka Jogakuin Kiyo* 18 (1987): 1-6.  
 田尾本昭 “民間企業の研究活動に関する調査報告”『情報管理』38, 2 (1995): 99-114  
 Toffler, Alvin. *The Third Wave*. New York: Morrow, 1980.
21. 本文中に出典を表示する場合には、注の形をとらず、該当箇所にかっこをつけ、引用文献目録に記載されている文献の著者の姓および該当頁等を明記する。  
 例：「大幅な組織改革を行った企業が38.6%である」（田尾本 103）
22. 投稿予定者は所定の用紙に、原稿の種類、標題等を記入し、7月5日（土）までに編集事務担当者に提出する。
23. 原稿締切りは9月12日（金）とする。

大阪女学院短期大学学術研究会